

各地区業況アンケート結果（30年1月調査分）

（30年1月24日）

全国鉄鋼販売業連合会

1月23日締切で、当会役員151名に対しこのアンケートを行ったところ65名の回答があり（回答率43.0%）その結果が下記のとおりまとまりましたのでご報告致します。なお、本結果は鉄流懇など重要会議に資料として提出しています。

※ $DI = (A \times 2 + B \times 1 - D \times 1 - E \times 2) \div \text{総回答数} \times 100$ 、（数は回答実数）

1. 4割強の企業が前年同月比数量増

問1】貴社の12月（先月）総売上数量・総売上金額は、前年同月と比し如何でしたか？（答）

	A. 10%以上増	B. 5%以上増	C. ほぼ横這い	D. 5%以上減	E. 10%以上減	計	前回
売上数量/前年同月比	12	14	25	6	8	65	73
比率	19%	22%	38%	9%	12%	DI+25	DI+27
売上金額/前年同月比	19	17	19	6	4	65	73
比率	29%	26%	29%	9%	6%	DI+63	DI+59

2. 黒字が7割弱

問2】貴社の12月（先月）の鉄鋼部門における企業収益状況は、如何ですか？（答）

	A. 黒字	B. 若干黒字	C. 収支トントン	D. 若干赤字	E. 赤字	計	前回
企業収益状況	15	30	10	7	3	65	73
比率	23%	46%	15%	11%	5%	DI+72	DI+107

3. 民間建向けがやや増加傾向に

問3】貴社の営業窓口から見て1月（今月）の販売量は、前月に比し如何ですか？（答）

	A. かなり増加	B. やや増加	C. ほぼ横這い	D. やや減少	E. かなり減少	計	DI	前回
公共建設向	1	8	29	11	1	50	-6	+5
民間建設向	2	21	24	9	1	57	+25	+19
自動車向	1	5	25	5		36	+6	+19
その他需要家向	1	17	31	5	1	55	+22	+8
仲間取引	2	8	33	9	1	53	+2	-3
計	7	59	142	39	4	251	+10	+9
比率	3%	23%	57%	15%	2%			

4. 春先に向け需要は堅調傾向

問4】貴社における向う2月から4月までの需要動向について貴殿の予測は如何ですか？（答）

	A. 増加	B. 微増	C. ほぼ横ばい	D. 微減	E. 減少	計	前回
短期需要動向予測	8	36	17	3	1	65	73
比率	12%	55%	26%	5%	2%	DI +72	DI +45

5. 薄板関連品薄感強まる

問5】下記主要品種の貴地区市場の需給状況は如何ですか？貴社の取扱品種のみについてご記入ください。(答)

1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	品種別	A	B	C	D	E		1月
D I	D I	D I	D I	D I	D I	D I	D I	D I	D I	D I	D I	需給状況	非常に不足	不足気味	需給均衡	過剰気味	非常に過剰	計	D I
-19	-26	-21	-28	-17	-31	-24	-29	-20	-19	-11	10	鉄筋用丸鋼	2	1	18	3		24	8
-5	-3	-11	-7	-8	-14	-3	-13	-13	-13	-6	3	構造用丸鋼		2	21	3		26	-4
-5	-3	-7	-7	-7	-11	-12	-9	-5	-9	-3	3	平角鋼		3	20	3		26	0
38	26	21	7	4	-18	0	0	15	22	29	38	H形鋼	1	6	15	2		24	25
0	-23	-4	0	-5	-16	-26	-13	0	21	32	54	コラム		6	10	1		17	29
2	-6	-3	-3	-7	-10	-16	-13	0	-8	-6	11	小形山形鋼	1	6	17	3		27	19
7	-6	-12	-6	-10	-26	-19	-16	-5	-5	-5	6	中形山形鋼		2	21	4		27	-7
10	3	-12	-9	-10	-24	-22	-5	3	-3	0	11	溝形鋼		3	21	3		27	0
-9	-20	-15	-11	-4	-19	-20	-13	-10	-10	3	0	軽量形鋼C形		4	17	3		24	4
-12	-19	-10	-9	0	-9	-20	-5	-18	-14	-15	5	軽量形鋼広巾		2	14	3		19	-5
36	32	39	28	17	9	7	3	23	0	29	22	冷延薄板	2	9	15	1		27	44
21	22	16	17	0	3	-12	-9	11	14	39	46	熱延薄板	3	16	12	2		33	61
62	42	58	56	30	16	-3	-6	35	31	47	53	表面処理鋼板	5	15	12	1		33	73
100	89	85	57	52	32	9	14	45	31	64	69	酸洗鋼板	3	20	11			34	76
30	38	23	14	0	-13	-11	-5	10	10	46	53	中板	6	16	10	2		34	76
18	16	10	-3	-6	-8	-19	-19	-5	3	29	21	厚板		9	21	3		33	18
25	22	5	-6	-6	-19	-7	-18	0	5	17	0	極厚板		1	12	2		15	-7
-11	-11	3	-7	0	-6	-11	-9	-6	3	20	6	縞板		2	20	3		25	-4
-16	-18	-23	-6	-19	-16	-28	-14	-15	-3	0	3	中径角	1	3	23	3		30	7
-16	-8	-12	0	-9	-15	-23	-13	-16	5	0	8	ガス管黒		2	25	3		30	-3
-11	-12	-9	3	-9	-11	-21	-18	-20	-3	3	3	構造用鋼管		2	25	3		30	-3
11	6	7	4	-1	-9	-14	-10	1	3	15	21	計	24	130	360	51	0	565	22

6. メーカー値上げについていけず、流通の唱え上げ続く

問6】貴社の地域の景況、主力取扱品種の需要動向は如何ですか？地域の特殊事情・需要動向・信用問題などを織り交せて、概況をお知らせください。(答え)

北海道	A	昨年末にかけてメーカー値上げが実施されている。早急に唱えをアップし、転嫁しなければならぬ。しかし、季節的要因もあり、倉出し出荷は低迷している。現状は強横ばいで推移している。
	B	北海道の鋼材需要は閑散期である。丸棒などの荷動きは激減。ファブは冬期も稼働率が高く、鉄骨向けの荷動きは通常期より多いと思われる。
	C	昨年の工期が1～2ヶ月遅れている。その影響で現場は動いているが、荷動きはない。価格は昨年末から漸く上がり始めたが、積み残しが出ないか心配である。今年の新規物件の話もぼちぼち出始めてきた。例年より早いスタートが切られそうである。
東北	A	例年1月は需要が減少する月である。特に一次加工が激減するが、今年は前年より多くなりそうである。今月より価格転嫁を確実に進めていく。
	B	今、ある物件を大事にしていく。単価も徐々にではあるが上昇している。
	C	年明けは例年と同様に低調である。その反面、メーカー値上げは継続しており、少しずつ転嫁が進んでいるが、まだ先が見えず慎重に対応したい。物件の見積りや案件は順調に増えている。
新潟	A	足元の仕事は少ないが、関東地域を中心とした春先の仕事が見えてきた。
	B	1月は稼働率が低く値上げが課題として大きく浮かんでくる。値上げが喫緊の課題である。
	C	全て値上げ、値上げで営業もお客様も疲れ気味。品種状態が更に疲れを助長。
	D	価格転嫁を徹底。
	E	各向け先とも荷動きは良好である。価格交渉はなかなか進展せず。
	F	数量は依然として物足りない状況が継続しているが、価格は確実に上昇している。
	G	冬場の不需要期に入り、自動車以外は減少傾向。建築も足元少ないが、春以降に物件を控えており、高稼働となる見込みである。高炉に続き、電炉製品も仕入価格が上昇しているため値上げ活動が急務になっている。
東京	A	(鋼管)建築土木は良くなってきたが、設備投資関係がまだ出ていない。
	B	店売りの状況は厳しく、低調な状態で推移している。
	C	12月は11月比で売上が落ちたが悲観視していない。各需要家は物件をかかえているため、1～3月において数量の確保は出来そうだが、採算が取れるように値上げしていく。ただ、新潟地区はいまだ荷動きが上ってこないため相場上昇機運に乏しく、採算が厳しい状況である。
	D	(鋼管)都心の大型建設物件を受注しているが、メーカーからの供給が悪化して折角の需要に応えられない。値上転嫁どころか売物がない。
	E	(鋼管)荷動きは低調だが、市況は強含み推移で土木関連も堅調である。

東京	F	タイト感が一層強くなってきている。
	G	表面処理鋼板はメーカーの更なる値上げとロールカットによりタイトな状況が暫く続きそうである。直需ユーザー向は建設分野を中心に好調で値上げも少しずつ認められる環境となってきた。しかし、メーカー値上げ幅に追いつかず、更なる値上げをしないと赤字が続いてしまう。
静岡	A	建築関連のリードオフ感は継続しているが、鉄鋼商品全般に行き届いている実感はない。小正月（1月15日）明けから従来通り本格始動した。期待大である。昨年末、年明けと流通大手は価格改定に拍車がかかった。同時に条鋼類中心に歯抜けサイズが発生し入荷待ちの状況がある。「申酉騒ぐ戌笑い」の格言通りにしたい。企業リサーチ会社から取引先の状況を聞かれることが多いが、その逆の立場になっているかもしれない。販売増、物流増の裏返しである。地元の県と市の首長の折り合いが悪く水を差す事由でもある。
	B	建築はまとまった物件が決定しているため例年よりもH形鋼、コラムの需要はあるが、中小需要家向の物件数は少なく繁忙感に欠ける。高炉メーカーの薄板値上げは強硬であるうえ入荷遅れも著しく市中品の手当ても難しい状況である。
	C	2月以降から夏頃までの建築案件は見えてきている。ゼネコンもファブも高収益を上げている中で、われわれ鋼材特約店も乗り遅れてはならない。
石川	A	品不足はまだ続くが、特に薄板類の一流品（一級品の1つ上のランク）が超不足である。普通の一級品を売り手、買い手ともに利用するしかない状況がしばらく続くだろう。この状況が長く続いた方が、使い慣れてきて品不足に対応できる能力がつく様に思う。それでも使い勝手のランク差は必要であり、価格差も必要である。これからも、このような状況が忘れない程度に起きた方が業界にとって良いことではないかと思う。
	B	当地区ではホテルの建設計画が数多く予定されているが、将来、供給過多になるのではとの報道が散見されるようになってきた。それに反し、金沢市内における駐車場の絶対数の不足も気になるところである。
富山	A	建機（海外向け）、産機（海外向け）が好調。地元向けの鉄骨、建機は下降気味である。雪も積もり始め、物流の遅れが更に増しそうな様子である。
	B	当地区では建築物件の出件数減少が続いている。客先の仕事量にも濃淡が出てきている。メーカー販価の上昇が続く中で値上げ転嫁に苦慮している。
福井		新幹線橋脚基礎工事が本格的に動き出してきた。今後、鉄筋の需要が多くなると思う。鉄骨ファブは県内外とも受注が好調で、かなり先まで詰まっている状況。加工先が見つからなく浮いている物件が多数ある。鋼材単価は順調に上がり、先行き最高値が見えない状況である。
岐阜	A	建築関連中心で堅調に推移している。コラム、中径角パイプの入荷遅れが見られる。価格転嫁が必須な状況である。産業機械の需要動向も微増傾向。運送経費は需要の短納期化により増加している。
	B	メーカー値上げ以上にタイト感があり高値になっている。特に鋼板類が少ない。ユーザー渡し単価が上っていればよいが、仲間取引の方が高い場合もあり、お客の理解までもうひとがんばり必要である。

愛知	A	集購は前年同月比微増で3月までは同じような傾向と見ている。EV関係を調べているが、まだ読みづらい。2020年になるとかなりはっきりしてくる。プロパーでは家具が前年悪かったこともあり、対比では良い。陳列は予想通り2ヶ月連続で悪い。メーカーの仕入価格が上った。競合先の他メーカーの動向を調べているが、暫く値上げの動きが出てきており、較差が大きく困っている。相変わらず人手不足で業界全体の課題となっている。
	B	自動車が堅調で需要は底堅い。その他は良いところとそうでないところと斑模様だが、全体としては順調である。板関係は多少不足気みだが、困るほどではない。これから3月に向けてどうなるのか。価格動向も心配である。
愛知	C	板類の不足が目立つ。値上げももう一段ありそうだ。ユーザーはそれなりに仕事を持っている。「人が足りない」という声は前から聞くが最近、声高になった気がする。
	D	鉄鋼関係の設備、製缶の見積りが増えてきた。大手自動車メーカー関連企業の耐震の仕事は出ている。鉄骨は物流倉庫が多く出ている。RC造は低調である。
	E	短納期の加工仕事が多く忙しい。今年に入り、大口も決まり始め、年度内の仕事量は堅調に推移しそうである。メーカー値上げにより簿価の上昇は避けられず運賃などのコストも上ってきているので、今以上にスピード感をもって価格転嫁を進めていきたい。
大阪	A	スクラップ、副資材高で悩むメーカー主導で価格は上ってきている。物の動き、実需は今一歩冴えない。中小物件、鉄骨の基礎は順調だが、如何せん中小物件が多く、量は伸び悩んでいる。
	B	建築関連を中心に荷動きは堅調。加工の引合いも多く、しばらく需要は底堅い。
香川		1月は更なる値上げを実行してきた。メーカー値上げの速度についていけない。12月に物件は一巡し落ち着いている状況。1～3月は在庫を大切に販売していきたい。
岡山		足並み揃えて値上げしていきたい。
北九州	A	需要は年明け以降も建築関連をはじめとして堅調に推移すると思われる。仕入価格も上ってきており、値上げは急務である。また、運転手不足は深刻な問題となっている。
	B	1月15日から実商売が始まったが、引合いも少なく、値上げも唱えのみで年末とほぼ同水準の相場である。安値追随は回避されている。当社ベースでの販売に心がけている。
	C	メーカー主導の値上げから漸く需要と供給の関係の市況となってきたが、輸送コストや人件費も上ってきているので収益確保はまだ大変である。
	D	今年度（3月まで）は山積みが高く繁忙である。特にBHを中心に山積みは高い状況である。
福岡	A	薄板、中板は引き続きタイト感が継続している。メーカーの枠カットの影響が本格化してきている。また、価格の上昇に伴い引合い増。
	B	12月度は今期、最高の売上状況だった。あらゆる業種が活発であった。しかし、多品種、少量受注が多く、特に納期がなかった。売上も伸びたが人件費も増加した。今年3月まで忙しさは続くと思うが、材料費のコストアップが問題であると同時に短納期受注対応が勝負である。与信問題はいまのところ落ち着いている状況である。

